

第3回江田島市公共交通協議会 (H22.9.28)

協議会議事録				
会議名	平成22年度 第3回江田島市公共交通協議会			
日時	平成22年9月28日(火) 14:30~16:15			
出席者	県立広島大学	名誉教授	のほら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教授	おかやま まさと 岡山 正人	—
	江田島バス株式会社	代表取締役社長	はすだ つとむ 蓮田 勉	代理出席 さんとう たかのり 山藤 孝則
	江田島バス株式会社	従業員代表	しらいし ひろし 白石 公士	○
	広島県旅客船協会	会長	にった いちろう 仁田 一郎	○
	株式会社ファーストビーチ	船員代表	たにぐち みる 谷口 実	○
	広島県タクシー協会	江能支部支部長	いまみや こうじ 今宮 浩二	—
	江田島市自治会連合会	会長	おがた けんそう 小方 憲三	○
	江田島市老人クラブ連合会	会長	いのこ よしお 猪子 嘉生	○
	江田島市社会福祉協議会	会長	おおつ かつひこ 大津 克彦	○
	江田島市女性会連合会	会長	くまくら まちこ 熊倉 町子	○
	江田島市観光協会	会長	なかしま まさる 中島 勝	○
	中国運輸局海事振興部旅客課	課長	おおしま ほるゆき 大島 治之	代理出席 たちかけ しんじ 太刀掛 眞治
	中国運輸局広島運輸支局	首席運輸企画専門官	やざわ しょうじ 八澤 昭二	代理出席 よしだ なみ 吉田 奈美
	広島県企画振興局地域振興部地域政策課	課長	やたがい ひでゆき 八谷 秀幸	代理出席 とくとみ あやこ 徳富 綾子
	江田島警察署	地域交通課長	しげむね ひろあき 重宗 博明	○
	市議会交通問題調査特別委員会	委員長	とち やすのり 登地 靖徳	○
	市議会産業建設常任委員会	委員長	えびす まさのぶ 胡子 雅信	○
	江田島市	副市長	しょうい よしあき 正井 嘉明	○
	江田島市	総務部長	どて さんせい 土手 三生	○
江田島市	土木建築部長	こうの きよし 幸野 潔	○	

1 開 会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
3 議長の選任について	
事務局	野原委員を議長に選任
4 協 議	
(1) 秋月～呉中央航路における社会実験運航終了後の方針について	
事務局	<p>－資料 1-1, 1-2, 1-3, 1-4 により説明－</p> <p>7月から10月にかけて、市の予算で社会実験運航を行っている。これまでの状況は試算よりも少ない結果が出ており、市から1か月に140万円の補助金を入れてもなお、7月～8月の2か月で94万8,749円の赤字が出ている。</p> <p>11月以降、航路の存続か陸路へ移行かの方針を決めることにしていた。9月16日の市議会全員協議会においては、陸上での対応を検討するとしていたが、つい最近、大昭汽船が継続しないなら、市の補助を受けずに引き続き運航したいという申し入れが、(有)バンカーサプライからあった。大昭汽船は、市の補助金がなければ運航は困難で、他社に譲渡することに協力する意向を示している。市としては、他社による運航により調整していきたい。</p>
議 長	<p>大変我々からすると朗報と言うか、ホットニュースを織り交ぜて、お諮りしたいと思う。現在の利用状況、アンケート結果、収支の途中状況などについて、委員の意見をたまわりたい。</p> <p>大昭汽船は一生懸命やられているが、バンカーサプライから、引き受けてもらえるような情報も入っている。市としては他社による運航も可能ではないかと考えているが、委員の皆様の議論をお願いしたい。</p>
委 員	大昭汽船でなかなか収支が難しいということだが、バンカーサプライはどういった点を工夫されるつもりなのか。
事務局	バンカーサプライの横山社長と実際に会って話した。現在考えておられる案として、宇品～似島学園航路以外に呉の遊覧船をされており、秋月航路と両方セットで運航し、似島の船をまわすなどの工夫をすれば、トータルで見れば何とかできるのではないかという話だった
委 員	収支の問題だが、社会実験の実績だと当初試算より少ない。既に他航路にシフトしているのではないかと思われる。特に通勤・通学ということであれば、定期券切替えの段階で小用呉航路へのシフトも懸念される。その点をバンカーサプライは認識しているのか。

事務局	<p>今朝バンカーサプライと話した。小用呉航路へのシフトなどマイナス要因が多いという話をさせてもらったが、バンカーサプライは状況に応じて小型船を使うなど、工夫ができるとのこと。便数は今の8便では不便があるので10便にしたい。料金は同じにしたいと話があった。これは実際にスタート出来ればという仮定の話だが、利用状況を見たとうえで話されていると考えている。</p>
委員	<p>大変良いことだが、未確認要素が大きい。この江田島市の海上交通はどの航路も赤字の中で頑張っておられる中で、当初予定していたように、ケース2で進めていなければ、ケース1が頓挫したときに間に合わないと思う。降って湧いた話に飛びつけば、急にやめた時に対応できなくなる。もう少し慎重に取り組んでもらわないと。この航路においても、定期航路ということであれば、遊覧船の船をまわすのも大変なことが想定される。どういう方向付けでいくのか、もう少し慎重に協議したほうが良いと思う。</p>
委員	<p>利用する住民を代表してお願いしたい。アンケートでは秋月地区の住民の方の意見が載っていたが、バス交通の便が良ければ、大柿町からでも随分利用する人はいると思う。今は朝1便、夕方1便の計2便しかないが、もう少し便数が増えれば利用すると思う。バスのダイヤ改正もお願いしたい。</p>
委員	<p>バス会社としては、精一杯やっている。増やせというのは到底不可能。バスの状況も考えてもらいたい。人員もバスも目一杯でやっている。そこをもう少しうまく出来る方法があれば、教えてもらいたい。</p>
議長	<p>例えばこの後、おれんじ号という、新しいデマンドタクシーも運行していく。車両の小型化など工夫し、検討する余地はあるのではないかと。地域住民の声もあるようなので、その辺を汲んで慎重に検討してもらいたい。</p>
委員	<p>あっちを増やしてこっちを減らすという形になる。難しいと思う。</p>
委員	<p>現状は、7時25分ゆめタウン発の小用行きが、小中学生が乗るのが大変だということで、臨時便を1便出している。大柿方面からのバス便増便は検討の余地はあると思うが、どれくらい利用見込みがあるのかで考えなければならない。</p> <p>基本的には、朝夕の通勤通学の時間帯というのは、我々が当初考えていたよりも多いということで、車両の大型化というものも今後考えていかなければならない。デマンドタクシーで小グループの移動も大事だが、朝夕の大人数の輸送も考えていかなければ、今の状況ではお手上げ状態となる。</p> <p>利用者の方の声をどんどんいただいた方が、そのデータを集積してそういうものをしていくということが出来る。</p>

<p>議 長</p>	<p>そうっていただけると、住民の方も元気が出る。地域の要望はバス会社も真剣に考えることにやぶさかではないということ。 バス運行について、市はどういった手を差し伸べるかということは決まっていないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>バンカーサプライの話が出てくる前までは、陸上で代替交通を検討しなければならないと考えていた。臨時バスやデマンドタクシーの検討も視野に入れていたが、この話が出てきたので保留したいと思う。</p>
<p>議 長</p>	<p>新たな企業が現れたということで、バス事業も慎重に検討を続けているということであるが、バンカーサプライも今後どういう形で展開していくのか、先程委員が言われたとおり、非常に検討しなければならない事柄も多々あるかと思うので、その辺を含めて考えていただきたいと思う。 他に意見はいかがか。</p>
<p>委 員</p>	<p>この件は元々、公共交通協議会の事業ではなく、市が単独で行っている事業である。この協議会で協議として賛成・反対の決議をしても良いのか疑問がある。議会で決めるべきことであり、参考意見としてやるならいいが、賛成・反対というものではない。例えば代替のバスの補助にいくら出すかもわからないし、協議会で諮って決めたわけではない。その辺の役割分担はどうなっているのか。 意見を聞かれたとするならば、この航路は非常に難しいと思うが、民間企業が手を挙げてやりたいと言うのであれば、やってもらえばいいのではないかというのが意見である。 ただ将来的に、来年国の交通基本法が成立し、県も市町も交通計画を作ることになる。その時に、限られたお金の中で、どこの航路・バス路線を、交通圏を守るために維持しなければならないかの位置づけをしなければならなくなるであろう。そういう流れの中で、大きな再編や、どの航路・路線を維持するためにどのくらいのお金を使うのか、議論しなければならなくなる。</p>
<p>議 長</p>	<p>この協議会は、御指摘のとおり賛否を問うわけではなく、あくまで市中心とする交通をどうしたらいいのかということで、それぞれの立場で意見をいただきたい。もうひとつ、この協議会には、議会はもちろんだが、それぞれの地域や事業所の利益代表者ばかりなので、そういった点で運行されている交通事業について、どういう課題があるのかをつまびらかにしていき、市の考えていく協議事項に加えていただきたい。各委員には御苦勞であるが意見を出していただきたい。 民間の事業者が手を挙げたということであるが、検討していかなければならない事柄が含まれているので、さらに課題があれば出していただきたいと思う。他に意見はないか。</p>

<p>委員</p>	<p>大昭汽船は10月末で運航を終了し、新しくやってみたい会社が出てきたとのことだが、もう9月の終わりであり、早い時点で答えを出さないといけない。あと1か月しかないので、どういう判断をするかが重要になってくる。</p> <p>130万円の売上しかないのに、350万円の経費が必要なわけだから、売上の倍以上の経費で大昭汽船が努力してやった航路がどうしても採算が合わないというところに、わたしがやりましようと言われるのは、奇特に感じる。小用呉航路の船会社が足を伸ばそうというのであれば理解が出来るのだが、縁のない会社がやろうというのは奇異に感じる。会長がある程度考え方を示さないと、時間の制限が来るので、そこらが重要ではないかと考える。</p>
<p>会長</p>	<p>今日社長と会って、いろんな心配をした。経営が困難な航路にあえて参入して航路を継続したいということだが、採算がとれるのかということ再三繰り返したし、極端な話3か月で駄目だったということになると、市民が戸惑うので、その辺の継続性はどうか、そういった話をさせてもらった。</p> <p>社長は、経営の仕方によっては出来るのだと言われた。例えばオイルの会社でもあるので燃料費の削減だとか、事務所を持たないとか、2人制でやるとかという方法で、黒字が大きく出ることなくても、何とか採算が取れるとのことであった。似島航路も当時赤字だったけど、黒字に転換している。市からの補助金も一切いらぬとのこと、非常に積極的で前向きな意向が伝わってきた。</p> <p>時間的な余裕もないので、運輸局に出向いて、それを变えるのにどういう方法を取ればよいのか相談したい。大昭汽船との詰めの話も若干残っている。</p> <p>市としては、デマンドタクシーなどに切り替える時期にきているとの思いはあったが、やってみようという会社がある以上、住民もそれを利用出来るわけだから、船や船員は大昭汽船からどうかそのまま譲り受けたいという構想を持たれており、その辺の詰めはきちんと出来ていないが、一定の見通しはあると感じている。調整がつけば、継続して運航できればという可能性を探ってみたい。</p>
<p>議長</p>	<p>協議会で賛否を問うというわけではないけれども、そういうことでせっかく民間企業の手が挙がっているところなので、それを受けて、そして出来るだけケース1の形でうまく展開出来ればそれに越したことはない。最悪の場合でも陸上交通に転換できるような形に進められるように、このまま続行してもらいたい。そういう形でもよろしいか。</p> <p>現在の時点では具体的な結論というわけではないが、さらに今後手続きを進めていただくということで、取り進めさせていただく。</p>

5 報 告	
(1) 平成 22 年度事業計画の進捗状況について	
事務局	－資料 2-1, 2-2, 2-3, 2-4, 2-5 により説明－
委 員	資料 2-2 西能美航路の合理化・効率化について、報告ということできらっと流されているが、最後の「競合航路への運賃補助が困難となった」というのは、どういうことなのか。これは今回の実証実験の根幹になる部分である。 いわゆる競合している 2 航路を役割分担することで、どういう効果が出るのか見てみよう、その代わり、フェリーがなくなるところは高速船を増やし、運賃を下げることにより、どういう効果が出るのか、また周りの航路に影響を与えないために、他航路に補助をしようと、協議会において決定した事項であるから、それが出来なくなりましたでは済まない。これこそ協議するべき問題だと思うのだが。
事務局	今回の協議事項にあげていなかったが、市の考えとして、影響はすぐに判断できないと考えている。お金の部分はこのような状況で、他のことに関しても若干見直しを行わざるをえない状況になっている。例えばデマンドタクシーの車両を購入からリースに変更している。もし協議ということなら、この中で意見をいただきたい。
委 員	いま報告事項に挙げるのがおかしい。要検討すべき。ここで補助するしないということは決められない。もう少し丁寧に、議案として協議会に挙げるべき。
議 長	このことは、事の重要性を鑑みて、日を改めて別途会議をした方がよいということではよろしいか。
委 員	西能美航路の実証実験が始まるが、その経過を見ながら、次回でも協議したほうがよいのではないかと思う。
委 員	確かに補助金の削減については、既存の事業者にとっては最も気になる部分である。ここで補助するしないという協議をするというのも、我々の権限が及ぶところでない。 したがって、せっかく海上分科会があるのだから、そこで叩いて協議会で報告していただくということではどうだろうか。我々に投げかけられても、協議が難しい面がある。
議 長	海上分科会で議論するのはよろしいかと思うが、この協議会としては、どういう議論をしたかという経緯と結果を知りたいので、出来ればそういう情報をいただきたい。
委 員	競合航路への運賃補助の話は、どうしても納得いかない。議会にも報告がなかったのではないか。議会で焦点になっていたのは、いわゆる中町・高田航路の統廃合、それに伴う高速船の値下げ。このことについて他業者から了解を得て下げるんだという、執行部からの答弁はあ

	<p>ったのだが、競合航路への運賃補助というのは初めて耳にした。過去の協議会の、どこで議論されたのか教えていただきたい。また、今の100円値下げとか、航路再編の前提にあったのであれば、しっかりと協議会全体で話し合ったのか、それとも海上分科会で話し合ったのか、その辺りも教えていただきたい。</p>
議長	<p>協議会で補助についての議論をした記憶はあるが、問題は困難になって取りやめになったということが、この協議会で議論されたかどうかということは聞いていないので、どういうふうを考えているのか、事務局に伺う。</p>
事務局	<p>議会説明については、以前一覧表で資料につけたことは記憶している。この部分に関しての説明は十分ではなかったかもしれない。協議会では、確かに削減の議論はしていない。今段階で議論すべきかどうかというのを迷っているところもあって、報告という形にさせてもらった。先程の運賃補助に関しては、これまでの西能美航路を調整する中で出てきた意見だと認識している。今後、海上分科会等で叩いてから、こちらで経緯を説明して改めて協議させてもらうということは、議会にも併せて説明させてもらいたい。</p>
委員	<p>議会で焦点になったのは、市営船は単独採算でやっているのであればよいが、これまで一般会計から多額の補助金、いわゆる税金を赤字補填として投入している。中町・高田航路を利用していない市民もおり、なぜ市営船だから値下げできるのか、小用宇品航路を利用する方からすると、税金の使い方が不公平ではないかという意見もある。その中で議会で説明されたのは、他航路の業者から了解を得ているということだったので、今回こういう意見が出てきたのはどうなのかなと思う。あとは全体の協議会で話すかどうかは結論が出る問題ではないのかと思っている。</p>
委員	<p>旅客船業界としては、高速船の値引きをするに当たって、他の航路への影響は補填すると言われたのでOKした。大前提である。逆に、実験をするときには、他の条件を動かすと効果がわからなくなる。実際に中町・高田航路の値下げで他航路も値下げしようかという話もあったが、それをすると効果がわからなくなるので、我慢してお客さんを取られても、そのまま突っ切ったほうが効果がわかるので、そのままいいではないか。なぜなら補填もしてくれるし、ということで各業者も納得した。もし補填がないなら、各社お客を取られるのを黙ってみているわけにいかないの、追従して値下げする。そうすると実験の効果がわからなくなるので、なるべくいじらずに実験を見守る方がいいのではないかというのが、旅客船協会としての考え方であった。こういう形で実証実験をやる中で、交通体系の根幹をなす部分だと思う。</p>

事務局	競合航路への運賃補助については、社会実験期間中の運賃補助であると説明している。もし今後の協議で影響が出てきているという話があるとすれば、考えていかなければならないのではないかと考えている。
委員	期間中影響が出たら、別に影響の度合いにより、別の策を考えるということか。
委員	市と事業者、議会との関係なので、ここでこれ以上議論が続いても結論は出ないと思う。
委員	市の単独での補助は、いくらを試算したのか。もし試算がないのに削減するとなれば、それはおかしい。
会長	事務局は具体的数字を持ちあわせていない。いずれにしても、補填をどういう形で計上して補填していくか。国の補助金の見直し削減で、その影響をどのようにしていくかということ、海上分科会で具体的に協議し、協議会だけでなく市議会全員協議会でも報告させてもらいたい。
委員	<p>国の補助見直しということだが、今回の補助金の予算額は上限が決まっているのだが、航路運賃補助は活性化再生補助金では対象にならないと記憶している。国の補助金の見直しは全体の計画で見直されたということで、直接補填する部分の補助金が減らされたということでは困る。</p> <p>国の補助金は上限が決まっており、たくさん出てくれば5割補助を4割補助にせざるを得ない場合も出てくる。その時に各協議会はその部分を削るか、あるいは自前でやるかという整理をするべきもの。</p> <p>協議会で承認されたのであれば、協議会として何かしらの検討があったのではないかと思う。</p>
会長	競合航路への運賃補助を打ち切られたと誤解を招く表現であり、市議会への報告も不十分であった。出来ればこの課題については、海上分科会に一旦収めさせてもらい、次の報告に変えさせていただきたい。
6 その他	
議長	その他のところで、議論はないか。
会長	先程協議をしてもらった秋月呉航路については、出来れば手を挙げてくれたバンカーサプライで進めたいところだが、十分煮詰まった状況ではない。半熟状態であるが、可能性は探って実現の方向で進めていきたい。駄目なら陸上交通へのシフトで探っていきたい。
7 閉会	